

二大自慢新聞

出雲市立平田中学校
2年2組
浅井 くらり
2023年8月3日

平田を代表する観光地である「木綿街道」と「雲州平田駅」。2つ所とも
たくさんの人々が集い、平田を賑わせてくれています。
今回、そんな平田の二大観光地の歴史から知っているのと行なうと楽しめる
豆知識まで紹介していきます。

雲州平田馬尺の魅力

〜1日800人もの人が利用する〜

運輸部運輸課兼運輸課長代理兼
雲州平田駅駅長 兼 川跡駅駅長
サ洛部さんへインタビュー!!

Q なぜ「雲州平田駅」という名前なんですか。

A 雲州平田駅の「雲州」というのはたぶん、石見の
地域で昔「石州」とも呼ばれていたように、昔出雲
の地域は「雲州」とも呼ばれていた。それに「平田」という
名前をつなげて「雲州平田駅」という名前にな
りました。

Q 一日何人くらいの人が利用しますか。

A 多いときには七百人から八百人くらいの人が利用して
います。朝七時から八時にかけての通勤・通学の時
間帯が一番人が多いです。

Q 雲州平田駅の自慢はなんですか。

A 一畑電車の駅は二十六個ありますが、その中で
一番規模が大きいことです。また、約百年前
につくられた古い電車が今は利用できます。
動くことができています。

100年以上 一畑電車の歴史

一畑電車は一九四二年に創立した会社で二〇二二年に
創立110周年をむかえた歴史ある会社です。はじめは
電車ではなく蒸気機関車が走っており一九二七年に
電車に変わりました。

一番古い電車の 魅力に迫る!!

昔の電車は木造!!
今の電車は鉄でできていますが
昔の電車は半分木造ででき
ていました。



平田駅にある昭和四年につくられた
電車

今はない 幻の線路!!

昔は一畑電車をつなぐ線路があ
りました。ですが戦時中、国に鉄を
提出しなければいけませんでした。鉄が
足りなかったため、惜しまれながら
一畑電車をつなぐ線路をとりこわ
して国に提出しました。そのための今
はない線路となりました。

木綿街道は 城下町!!

1500年代(戦国時代)平田佐渡守
による町割り(都市計画)が行われ
現在の平田の原形ができました。
その名残として、船川、湯谷川、後川
を利用した城下町の堀川のような
形態になっています。これは、**戦国時代
を意識した町割り**になっていることが
わかります。
他にもこの時代の名残はいくつもあり
防御用の鉤型路や袋小路を意味
する袋町という町名も残っています。

木綿街道の歴史

1300年、近江商人という商人らによって
開拓がなされました。それから
在郷の商人の町として栄えてい
ました。江戸時代には物資の
集散地として人や船が大勢いま
した。特に「雲州平田木綿」は大阪
や京都で声価を得て、木綿業
を中心とした商人らの文化が増
えていきました。明治時代には
養蚕も行われるようになり、明治
時代末期には工業都市として
栄えていきました。

有形文化財が2つも!!

木綿街道には
国登録有形文化財に2つ
場所があります。

- 本石橋邸 (2004年に登録)
- 酒持田本店 (2007年に登録)

有形文化財とは?
→ 我が国にとって歴史上、芸術上
学術上価値の高いもの
出典 (文化庁HP 国史・有形文化財)



本石橋邸



酒持田本店

編集後記

今回「雲州平田駅」と「木綿街道」について、調べたり取材を
して、どちらも昔から愛されてきた場所であり平田を賑わせて
くれているのだとわかりました。そして100年以上前のもので今に
残されているのは平田の地域の方のおかげだなと思いました。私は
この先もこの歴史あるものが残ることを願っています。私に
思いついたそのために自分ができることをしていきたいと思いました。

木綿街道の昔と今

1700年以上の歴史がある

